

M38,5,24

**露艦對馬沖出現説**  
 (二十三日午後四時二十七分)  
 今朝對馬海峽に露國軍艦現出せしとの電報あり船舶航海停止せしめたる由なれども其の筋より未だ確報無し

記者曰く昨朝來當市内にても此説切に風聞し當局は各汽船問屋に警告せしも午後に至りて全然誤傳なる事知れ當局にても警告を取消したり然れども時節柄連某々汽船會社は韓國航路を暫時停止せり

日本海海戦は、1908 (M38)年5月27日未明から開始されますが、バルチック艦隊の動向に関する記事がこのように掲載されています。

M38,5,27

日洋新聞 明治三十三年五月二十七日 第三千七百一十七号

**露艦の針路如何**  
 (可認物便郵種三第)

露艦の針路如何ニモゴッパフ艦隊と合同ニテ耶路を或距離を保ちつゝ提携したり耶路未だ確報あらず。只だ彼等の主力が海南方より廣東海上に越きて太平洋に出でたらむと謂ふ想像もある。而して開は就れも或然の沙汰で必然の事は無い。然る露艦隊の一部たる假裝巡洋艦二隻と連送艦三隻とが上海に現はれたりとは近頃以て面妖なり。露西艦隊の心算和を切望しつゝ向は露艦隊の所にて勝敗の局面を轉換せむと意は露艦隊の試みる。昨今に於て露艦隊の上海侵入は。彼レの曲意の混雜を間接に證據立てし却々に興趣あり。

露西艦隊は懲りて云ふ事を感ぜず。懲り可き場合は笑ふて誤魔化し再び其手を出す也。故に彼は例の通り外交局面を露艦隊に執著し。露西艦隊は戦局をゴチャノにせむと望む心より上海侵入を取して列國干渉のタチを興へ浦羅未陥落中に和議を進めむと期するやも測り難し。而れども今日に於ては開は穿ち過きたる推測ならむ。

露艦隊の形勢より推せば。露艦隊の上海侵入は。露艦隊直前の針路を紛らさす一手段とや視る可き。

露艦隊の狙ふ所は日本艦隊が力を各所に分ちて各方面に微弱と爲るに在れど其機を註文に懸する東遊艦隊ならざる故敵は露艦隊の海峽の突進に便ならしめんと志すが。假裝巡洋艦が上海に來りて之から露艦隊の即見舞申すと見せ掛けるのは日本艦隊の幾分なりとも此方面に割けるの底意にや。將た本艦隊も是等の假裝艦同様支那海を通過して上海に一體し爾して露艦隊の向ふよと前觸する如く思はせ様との寸法にや。或は又我の耳目を上海方面に轉せしめて寸法はせつゝ本艦隊は太平洋海峽を太平洋へと乗出す所存にや。就れにせよ敵は露艦隊五隻を捨て、露艦隊の不安を日本海軍に思念せしめるオケでも得策なり。

六隻の敵艦は南滿洲の沖を傳ふて上海に來りしが將た一旦太平洋海峽を通過して俄に北上せし露艦隊は一面露艦隊に備ふも厚く一面露艦隊主力に對するよに露艦隊は露艦隊の小敵艦をばワザと見免がし居る所以が推測される。ツマニ我は露海より

**對馬海峽に掛けて全力**  
 力を注ぎ居りさへすれば大局の作戦に危険を感せず利す海上決戦の一途のみたる

M38,5,28

佐世保電報

**大海戦大勝利**

本日午後一時敵の總艦隊第二第三を合せ艦隊と對洲沖より長門沖に至る間三時交戦し彼我砲撃三時間の後敵の陣形潰亂し敵艦隊は西へ向けて逃げ我艦隊は進撃中をり結果は我軍の大勝利と分明せり但し敵艦八千噸の者を撃沈したる外は未だ巨細の報み接せず

**對洲沖の劇戦敵艦隊々を亂す**

當鎮守府着對洲竹敷發電曰く今朝對洲水道にて我艦隊は單縦陣に進航し來れる敵艦隊を前後より要撃し砲聲殷々劇戦數時間巨れり

我艦隊敵艦隊を肉薄し敵艦隊の應戰隊形角度の機に乗じ猛射迫撃午後二時遂に敵艦隊々形を亂さしむ敵艦隊は敗状を陥れし目下劇戦中

(以上二件昨日號外再録)

M38,5,29

**海戦大勝利の獲物**

對洲沖大海戦に於て我艦隊の爲めに撃沈せしもの艦種各左の如し

▲戦艦ボロヂノ號

|    |            |
|----|------------|
| 噸數 | 一三、五一六噸    |
| 進水 | 一九〇八年      |
| 速力 | 一七節        |
| 砲  | 十二門        |
| 機  | 六門         |
| 副長 | 大佐 セレクレンニフ |
| 副長 | 中佐 マカロフ    |

▲巡洋艦アドミラルナヒモフ

|    |            |
|----|------------|
| 噸數 | 五、八八七噸     |
| 進水 | 一、八八五年     |
| 速力 | 一六節        |
| 砲  | 八門         |
| 機  | 六門         |
| 副長 | 中佐 セレクレンニフ |
| 副長 | 大尉 セロースナン  |

▲巡洋艦オレグ號

|    |            |
|----|------------|
| 噸數 | 六、六四五噸     |
| 進水 | 二、九〇三年     |
| 速力 | 一三節        |
| 砲  | 十二門        |
| 機  | 六門         |
| 副長 | 中佐 ドブツオレスキ |
| 副長 | 大尉 ボソボフ    |

▲特務艦カムナヤツトカ號

|    |         |
|----|---------|
| 噸數 | 七、一一〇七噸 |
| 進水 | 一〇九二年   |
| 速力 | 一二節     |

